

氏名 吉川 昌則 (YOSHIKAWA Masanori)

所属 社会学部社会学科

職名 教授

[履歴]

[学歴]

1989年 3月 日本体育大学体育学部社会体育学科卒業

2015年 10月 秋田大学大学院工学資源学研究科博士後期課程入学

2019年 9月 秋田大学大学院工学資源学研究科博士後期課程退学

[学位]

体育学士

[職歴]

1998年 4月 青森大学工学部情報システム工学科講師

2004年 4月 青森大学社会学部社会学科講師

2007年 4月 青森大学社会学部社会学科准教授

2010年 4月 青森大学経営学部経営学科准教授

2013年 4月 青森大学経営学部経営学科教授

2017年 4月 青森大学総合経営学部経営学科教授

2022年 4月 青森大学社会学部社会学科教授

[所属学会]

日本体育・スポーツ・健康学会、日本スキー学会、日本スポーツ心理学会、

日本フットボール学会

[教育活動]

[担当科目]

体育実技 A. 体育実技 B. スポーツ社会学. スポーツ指導論. 体育実習(スノー
スポーツ). シーズンスポーツ A. シーズンスポーツ B. 体育方法学(雪上スポー
ツ). スポーツ実習 I. スポーツ実習 II.

[教育指導に関する特記事項]

1. 学生への個別指導をオフィスアワーとして研究室にて行っている.
2. 体育実技においては、主体的な活動ができるようなオーガナイズを心がけて実施している.
3. 2008年度までサッカー部部长・監督として学生指導を行っていた.
4. 2004年度～2009年度は社会学部社会学科専門ゼミにて卒論指導を行った.
5. フランス国家検定スキー教師.

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 生涯学習を意識した体育実技カリキュラム (ゴルフ、アルペンスキー、スノーボードを含む) の工夫.
- (2) アルペンスキーの技術メカニズムと指導方法論.
- (3) アルペンスキーの高速滑走技術定量化.
- (4) 対人競技におけるパーソナルスペース.

[著書. 論文. 総説]

1. 「ワクシング技術教習会に参加して」(コラム), 『日本スキー学会誌』, 18, 2008.
2. 「アルペンスキーにおける谷周りの局面についての一考察:指導方法とその重要性の視点から」, 『研究紀要』, 32(2), 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2009.

3. 「アルペンスキーにおける谷回り部分を重視した指導方法」, 『研究紀要』, 33(2), 青森大学・青森短期大学学術研究, 2010.
4. 「ジュニア期におけるアルペンスキーの指導方法論」, 『研究紀要』, 34(1), 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2011.
5. 「パーソナル・スペース研究の概観-サッカーにおける対人距離解明の足がかりとして-」, 『研究紀要』, 35(1), 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2012.
6. 「テレマークビンディングの取り付け位置がアルペン用スキー板の操作性に及ぼす影響に関する一考察(2)」, 『研究紀要』, 35(3), 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2013.
7. 「テレマークビンディングの取り付け位置がアルペン用スキー板の操作性に及ぼす影響に関する一考察」, 『スキー研究』, 10, 日本スキー学会, 2013.
8. 「日本におけるアルペンスキーの普及に関する一考察」, 『研究紀要』, 36(3), 青森大学学術研究会, 2014.
9. 「外スキーの押しずらし操作を強調したアルペンスキー指導方法の効果について-初級・中級者指導の事例から-」, 『研究要綱』, 37(2), 青森大学学術研究会, 2014.
10. Measurement of the Distance at which a Defender Feels Pressure in One-on-One Situations - the Relation with the Theory of the Personal Space -, *Football Science*, Vol.12, Japanese Society of Science and Football, 2015.
11. 「小型力センサを用いたスキー用雪面反力計測システムの開発に関する研究」(共著), 『スキー研究』, 12(1), 日本スキー学会, 2015.
12. アルペンスキーターンにおける技術定量化に関する研究-スキー操作と加速度に着目した定量的解析-(共著), 『研究紀要』, 40(2), 青森大学学術研究会, 2017.
13. A Study for Quantification of Alpine Skiing Technique Related to Faster Skiing Using Sensor Systems, *Science and Skiing VIII*, 8th International Congress on Science and Skiing, 2020.

[分担執筆]

1. 日本スキー学会編, 『スキー研究 100年の軌跡と展望』, 道和書院, p.193-p.197, 2021.

[口頭・ポスター発表]

1. 「1対1場面におけるティフエンターかプレッシャーを感じる距離の測定-パーソナルスペース理論との関連性の検討-」, 日本フットボール学会 10th Congress, 2012.
2. 「急制動技術を初心者・初級者段階から導入するアルペンスキーの指導法について」, 日本スキー学会 2014年度研究会講演論文集, 2014.
3. 「小型力センサを用いたスキー用雪面反力計測システムの開発に関する研究」, 日本スキー学会第25回大会講演論文集, 2015.
4. 「アルペンスキーターンにおける技術定量化に関する研究」, 日本スキー学会第26回大会講演論文集, 2016.
5. 「アルペンスキーにおける技術定量化に関する研究-並進・回転運動に着目した定量的解析-」, 日本スキー学会 2016年度秋季大会講演論文集, 2016.
6. 「アルペンスキーターンにおける高速ターン技術の実滑走計測・解析と定量的評価-実滑走計測と加速度に着目した定量的評価-」, 日本スキー学会第27回大会講演論文集, 2017.
7. 「アルペンスキー競技における技術要因の検討に関する一考察-ワールドカップス

ラロームにおける完走率から-」，日本スキー学会 2018 年度秋季大会講演論文集，2018.

8. "A Study for Quantification of Alpine Skiing Technique Related to Faster Skiing Using Sensor Systems", *Book of Abstracts*, 8th International Congress on Science and Skiing, 2019.

[外部研究資金]

平成 28 年度科学研究費助成事業（基盤研究（C））. 日本学術振興会. 代表研究者. 課題番号：16K01705. 研究テーマ：「アルペンスキーにおける高速ターン技術の実滑走計測・解析と定量的評価」. 2016 年度-2018 年度.

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

甲田幼稚園スキー教室主任講師(2006 年度～現在).

[学内各種委員]

入学試験等実施委員会委員、FD・SD 委員会委員、社会学部入試委員会委員長

[学外各種委員]

日本体育学会第 57 回大会実行委員(2006 年度) .

東北地区大学サッカー連盟総務部副部長，規律・フェアプレー部副部長
(2007 年度～2017 年度).

日本体育学会東北支部監事(2009 年度～2010 年度).

日本スキー学会理事(2010 年 3 月～現在).

日本スキー学会第 25 回大会実行委員長.

子どもの健康づくり体制支援事業地区推進連絡協議会（大畑地区）指導助言者.
(2018 年度～2019 年度)

株式会社エムアンドエムカンパニー顧問（2024 年 3 月～現在）